第 3 回世界海上保安機関長官級会合議長総括（仮訳）

2023年10月31日・11月1日、於東京

1. アフリカ、アメリカ、アジア、ヨーロッパ及びオセアニアの海上保安機関、海上保安機能を有する機関、海上保安機能に責任を持つ国際機関または地域機関及び関連を有する機関（以後：海上保安機関等と称す）の長は、2023年10月31日、11月1日に東京で開催された第3回世界海上保安機関長官級会合（以後：世界長官級会合と称す）に出席した。今回の世界長官級会合の議長は日本国海上保安庁、石井昌平長官が務めた。
2. 海上保安機関等の長は、海洋の安全及び平和そして美しい海洋環境は、国際社会の幸福と繁栄に不可欠なものであることを再確認した。
3. 海上保安機関等の長は、海上における人命の安全の確保、遭難と災害対応の準備、海洋環境保全、そして国際海洋法を前提とした、海洋における法の支配に基づく海洋秩序の確保は、世界中の人々が安心して海を利用し様々な恩恵を享受するための不可欠な基盤であることを再確認した。
4. 海上保安機関等の長は、第1回の世界長官級会合で確認した、世界の海上保安機関等の間における既存の地域枠組みを越えた連携の強化や対話の拡大の重要性、また、世界が直面している課題を克服するための世界中の地域の知恵と専門的技術そして知識を結集することの重要性を想起した。
5. 海上保安機関等の長は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に含まれる世界的な気候変動、環境に対する影響、IUU 漁業、組織犯罪による社会的な不安定、感染症パンデミック、新技術活用等に起因する航行環境の変化といった、今日世界が直面する課題に広く対応する必要がある、かつ、喫緊の課題であると再認識した。
6. 海上保安機関等の長は、先駆的な知見・経験を有する機関や組織からの発表を通じて、MASS を含む自動運航技術に関し、ルールの検討状況、技術開発の進捗、海上保安機関における活用事例等に

ついでに理解を深めた。また、新型コロナウイルス感染症パンデミックの経験を踏まえた次期感染症への備え及び非正規移民といった正に直面しているまたは予想される課題への対処の重要性についても再認識した。さらに、人類共通の普遍的脅威である海賊及び船舶に対する武装強盗について、引き続き脅威であり続けており、継続的かつ協力的な対応が不可欠であることを再確認した。

7. 海上保安機関等の長は、第2回世界海上保安機関実務者会合（以後：世界実務者会合と称す）及びコレスポンスグループによる会合での議論を経て報告された「会合運営ガイドライン」改正案を支持した。また、改正後のガイドラインを適切に運用し、世界長官級会合を機能的、持続可能な枠組みとして維持していくとの決意を確認した。
8. 海上保安機関等の長は、第2回世界実務者会合及びコレスポンスグループによる会合での議論を経て報告された、先進的な成功事例や経験、海上保安国際人材育成のための有益な情報などを共有するための「世界長官級会合ウェブサイト」について、その構築完了を確認し、運用開始を支持した。
9. 海上保安機関等の長は、第2回世界長官級会合で提案された「新たな教育機会」が重要であることを再認識するとともに、第2回世界実務者会合及び海上保安国際人材育成コアメンバーによる議論を経て実施している「オンラインプログラム」について、世界中から参加者を得ながら回数を重ねて行われている現状を踏まえ、その有用性を確認するとともに、より教育効果の高い実施方法を追求しつつ、継続実施することについて支持した。また、海上保安機関等の長は、海上保安国際人材育成のため、世界長官級会合ウェブサイトの活用策について支持した。
10. 海上保安機関等の長は、次回会合に関し、会合運営ガイドラインの改正を踏まえ、一定の検討期間を設けた上で、同期間中にサポート事務局を含む関係国間で調整することを支持した。
11. 海上保安機関等の長は、世界長官級会合がより多くの参加者を得て、さらにグローバルかつ有用なものになっていることを歓迎し

た。また、第3回世界長官級会合の成果としての「会合運営ガイドラインの改正」「ウェブサイトの構築」「海上保安国際人材育成のためのオンラインプログラムに係る実施方針」により、本会合がこれまで以上に機能的かつ持続可能なものとなったことを認識し、世界の海上保安機関間の連携・協力のプラットフォームとして引き続き有効に機能させていく必要性を確認した。加えて、the first responders and front-line actors たる海上保安機関等が直面する課題を克服し、Peaceful, Beautiful and Bountiful Seas を次世代に受け継ぐためには、海上部門における共通の行動理念への理解を深め、全世界の海上保安能力を向上させることが重要であると再認識した。

12. この総括は、参加した海上保安機関等の長の全会一致の支持を受けて第3回世界長官級会合の議長によって作成された。